

Ⅱ 調査結果

1 標本構成

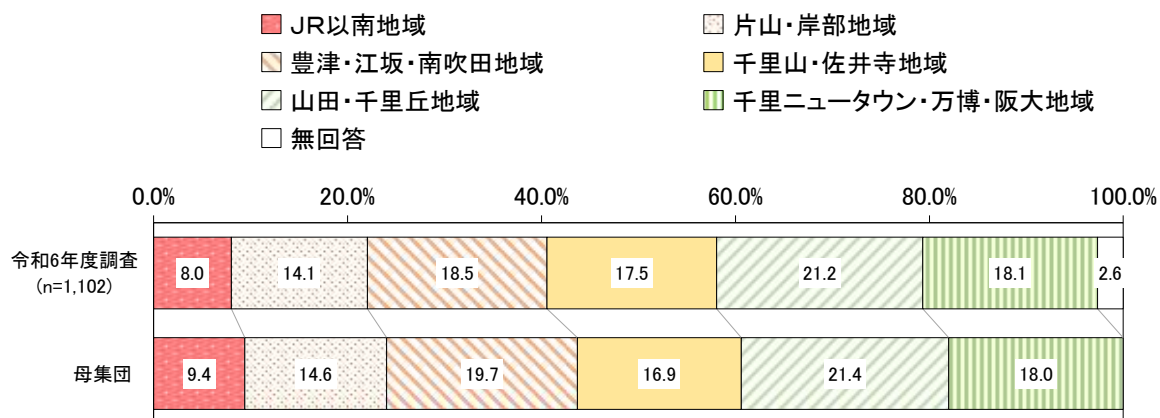
ここでは、回答者の基本属性について集計し、回収標本の特徴を示します。また、母集団（令和6年(2024年)7月31日現在）と比較可能な項目についても示しています。なお、無回答の算入や除外、四捨五入の処理などによって、百分率の合計が100%にならない場合もあります。

（1）居住地域（問1）

「山田・千里丘地域」の割合が21.2%と最も高く、次いで「豊津・江坂・南吹田地域」の割合が18.5%、「千里ニュータウン・万博・阪大地域」の割合が18.1%となっています。

母集団と比較すると、大きな違いはみられません。

図表1 居住地域（単純回答）

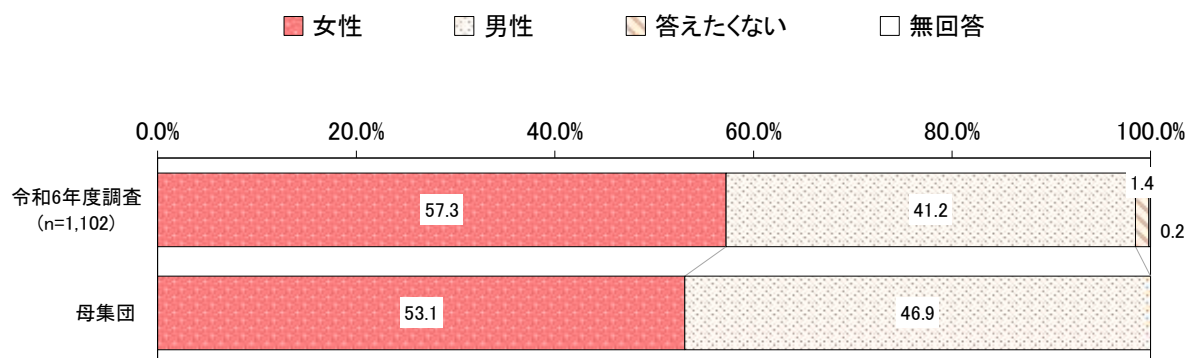


（２）性別（問２）

「女性」の割合が 57.3%、「男性」の割合が 41.2%となっており、「女性」が「男性」を 16.1 ポイント上回っています。

母集団をみると、「女性」の割合が 53.1%、「男性」の割合が 46.9%となっており、「女性」が「男性」を 6.2 ポイント上回っています。

図表 2 回答者の性別（単純回答）



図表 3 回答者の性別（居住地域別）

単位：％

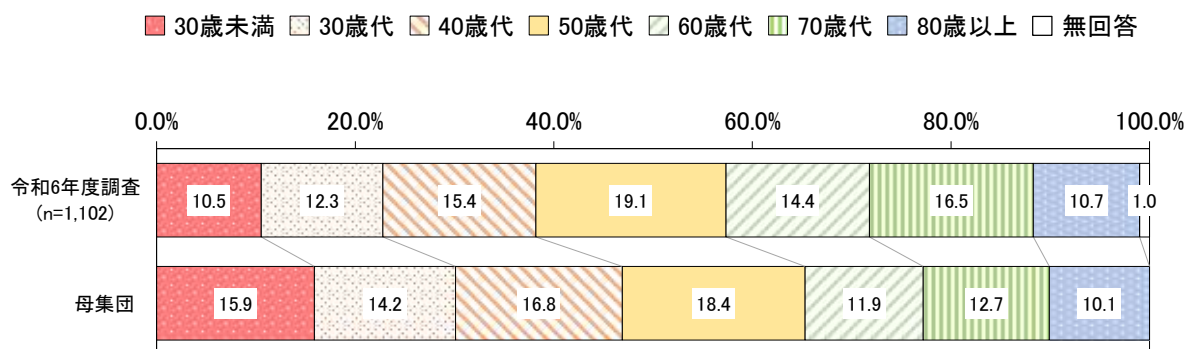
区分		有効回答数 (件)	女性	男性	その他	無回答
全 体		1, 102	57.3	41.2	1.4	0.2
母集団		321, 370	53.1	46.9	—	—
居住地域別	JR以南	88	58.0	42.0	—	—
	片山・岸部	155	54.2	42.6	3.2	—
	豊津・江坂・南吹田	204	55.4	42.6	1.5	0.5
	千里山・佐井寺	193	58.0	40.9	1.0	—
	山田・千里丘	234	55.6	42.3	1.7	0.4
	千里NT・万博・阪大	199	60.3	39.2	0.5	—

(3) 年齢層（問3）

「50 歳代」の割合が 19.1%と最も高く、次いで「70 歳代」の割合が 16.5%、「40 歳代」の割合が 15.4%となっています。

母集団と比較すると、「30 歳未満」の割合が少なくなっています。

図表 4 回答者の年齢層（単純回答）



図表 5 回答者の年齢層（居住地域別・性別）

単位：％

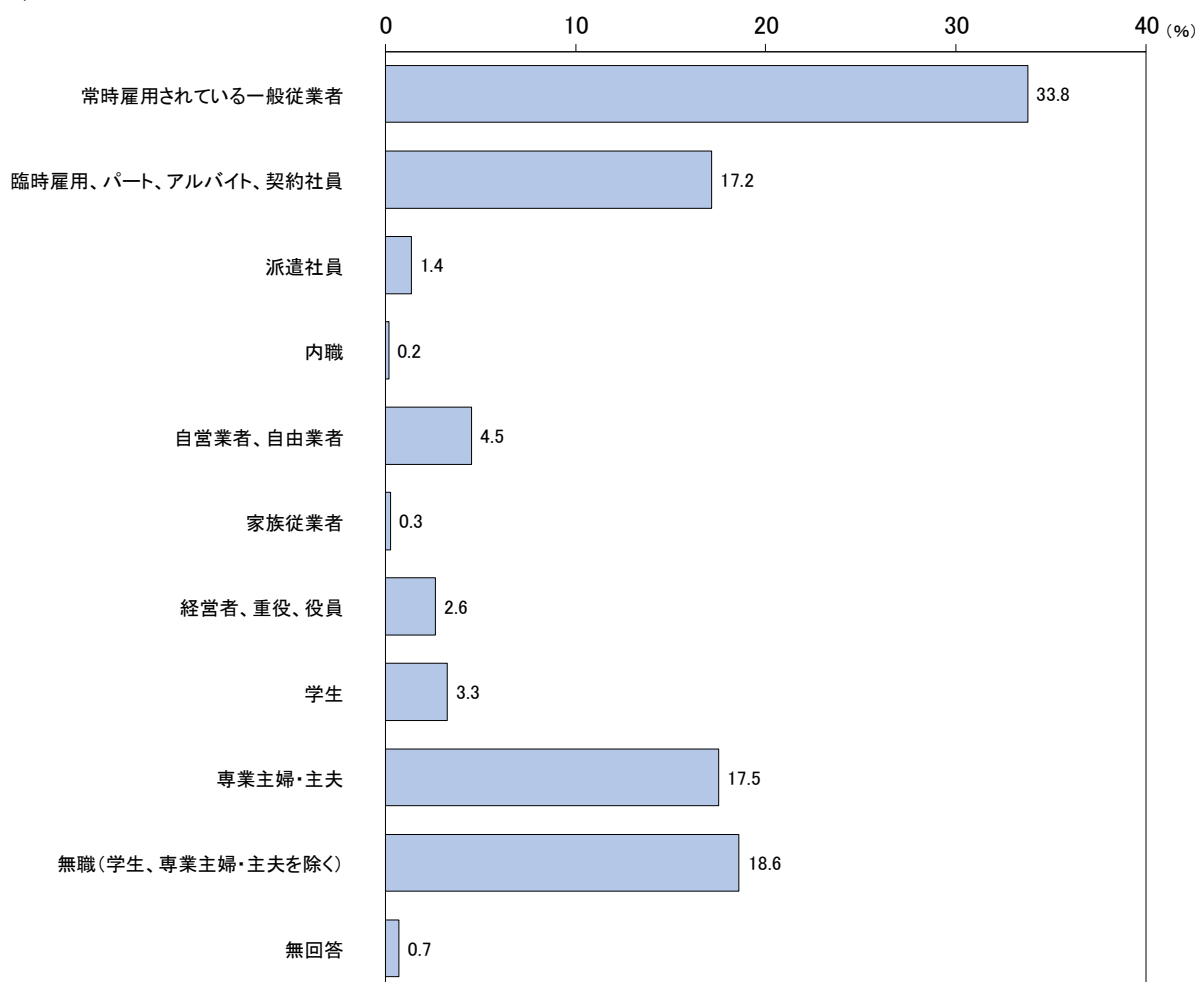
区分		有効回答数 (件)	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
全 体		1,102	10.5	12.3	15.4	19.1	14.4	16.5	10.7	1.0
居住地域別	JR以南	88	9.1	17.0	9.1	22.7	9.1	18.2	14.8	—
	片山・岸部	155	11.6	10.3	16.1	20.6	15.5	12.9	11.6	1.3
	豊津・江坂・南吹田	204	16.7	19.6	17.2	19.1	10.8	11.3	3.9	1.5
	千里山・佐井寺	193	10.9	10.9	17.6	18.1	16.1	18.1	7.3	1.0
	山田・千里丘	234	9.8	8.1	16.7	18.4	17.5	18.8	10.3	0.4
	千里NT・万博・阪大	199	5.0	11.6	14.1	19.6	15.6	19.1	14.6	0.5
性別	女性	631	11.7	12.2	15.7	16.6	14.7	17.1	10.9	1.0
	男性	454	8.8	12.3	14.1	22.5	14.3	16.3	10.6	1.1
	答えたくない	15	13.3	13.3	40.0	26.7	6.7	—	—	—

(4) 職業 (問4)

「常時雇用されている一般従業者」の割合が 33.8%と最も高く、次いで「無職(学生、専業主婦・主夫を除く)」の割合が 18.6%、「専業主婦・主夫」の割合が 17.5%となっています。

図表6 回答者の職業 (単純回答)

(n=1,102)



図表 7 回答者の職業（居住地域別、性別、年齢別）

単位：％

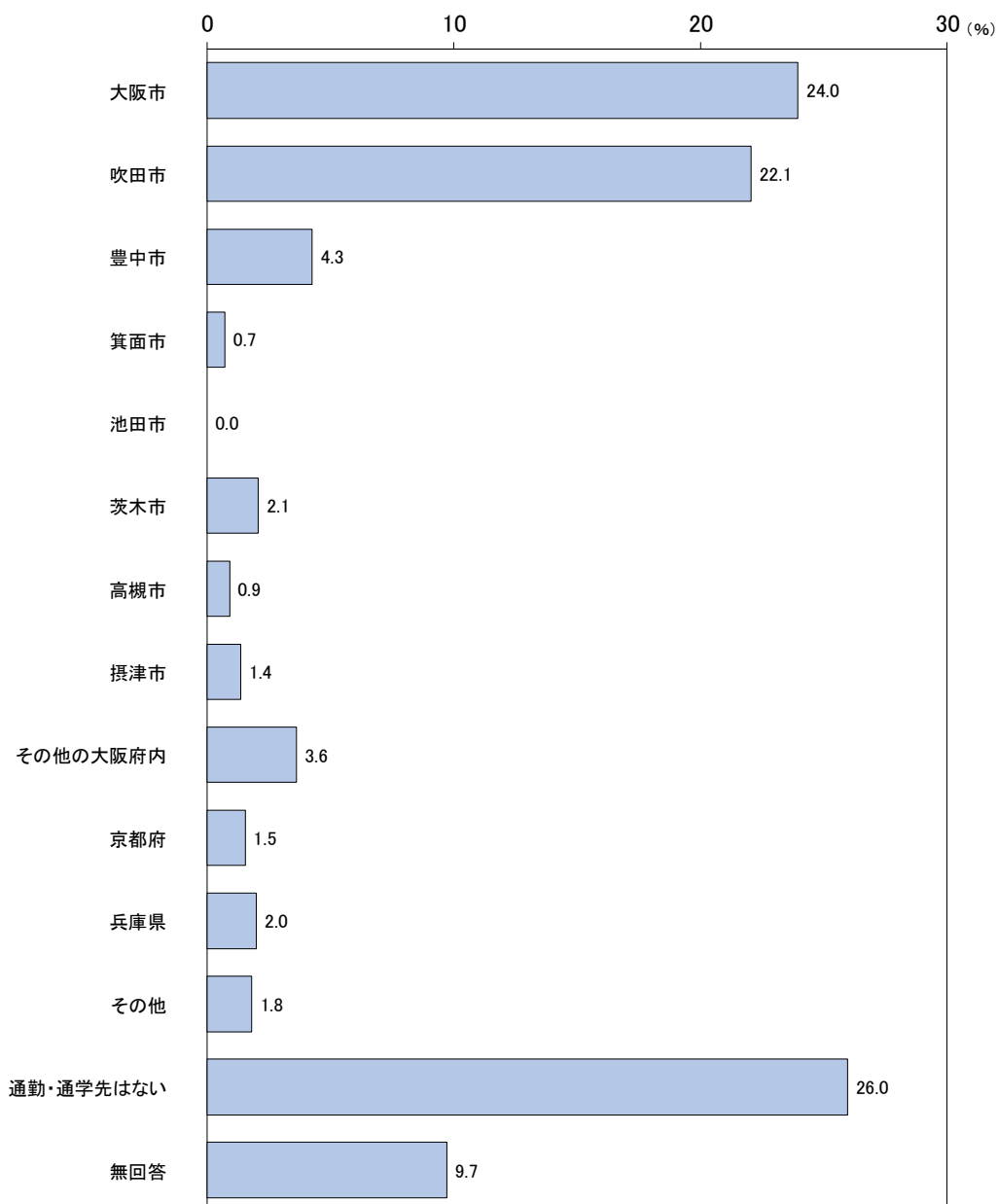
区分		有効回答数 (件)	一般従業者 常時雇用されている一	臨時雇用、パート、アル バイト、契約社員	派遣社員	内職	自営業者、自由業者	家族従業者	経営者、重役、役員	学生	専業主婦・主夫	無職（学生、専業主婦・ 主夫を除く）	無回答
全 体		1,102	33.8	17.2	1.4	0.2	4.5	0.3	2.6	3.3	17.5	18.6	0.7
居住地域別	JR以南	88	40.9	14.8	3.4	—	3.4	—	—	—	21.6	14.8	1.1
	片山・岸部	155	32.3	23.2	0.6	—	4.5	0.6	3.2	6.5	11.0	16.8	1.3
	豊津・江坂・南吹田	204	43.6	16.2	2.9	0.5	3.9	1.0	2.9	2.9	10.8	14.7	0.5
	千里山・佐井寺	193	32.1	18.1	—	—	4.1	—	4.1	2.6	21.8	17.1	—
	山田・千里丘	234	31.2	14.5	1.7	0.4	5.6	—	2.1	4.3	17.9	21.4	0.9
	千里NT・万博・阪大	199	29.6	17.1	0.5	—	4.0	—	2.0	2.0	22.1	22.1	0.5
性別	女性	631	22.7	23.9	2.1	0.2	3.2	0.5	1.7	2.9	29.3	13.2	0.5
	男性	454	48.7	8.1	0.4	—	6.6	—	4.0	3.5	1.3	26.2	1.1
	答えたくない	15	46.7	6.7	—	6.7	—	—	—	13.3	13.3	13.3	—
年齢別	30 歳未満	116	45.7	12.9	2.6	—	4.3	—	0.9	30.2	1.7	1.7	—
	30 歳代	135	59.3	20.0	0.7	0.7	1.5	—	—	0.7	13.3	3.7	—
	40 歳代	170	53.5	23.5	1.8	—	2.9	—	2.9	—	11.2	4.1	—
	50 歳代	211	54.0	18.0	1.9	—	6.6	0.9	3.3	—	11.4	3.3	0.5
	60 歳代	159	20.8	27.0	1.9	0.6	5.7	0.6	5.0	—	18.2	20.1	—
	70 歳代	182	—	12.1	—	—	6.0	—	3.3	—	36.8	41.8	—
	80 歳以上	118	—	0.8	0.8	—	2.5	—	0.8	—	28.8	62.7	3.4

（５）通勤・通学地（問５）

「通勤・通学先はない」の割合が26.0%と最も高く、次いで「大阪市」の割合が24.0%、「吹田市」の割合が22.1%となっています。

図表８ 回答者の通勤・通学地（単純回答）

(n=1,102)



図表 9 回答者の通勤・通学地（居住地域別・性別・年齢別・職業別）

単位：％

区分		有効回答数 (件)	大阪市	吹田市	通勤・通学先はない	無回答
全 体		1,102	24.0	22.1	26.0	9.7
居住地域別	JR以南	88	25.0	20.5	23.9	11.4
	片山・岸部	155	24.5	31.6	21.3	5.2
	豊津・江坂・南吹田	204	24.5	26.0	18.1	8.3
	千里山・佐井寺	193	31.1	19.7	28.0	10.4
	山田・千里丘	234	20.5	17.9	28.6	11.5
	千里NT・万博・阪大	199	22.6	17.1	35.2	7.5
性別	女性	631	19.3	26.0	29.6	12.0
	男性	454	30.0	16.3	21.1	6.4
	答えたくない	15	33.3	33.3	20.0	6.7
年齢別	30 歳未満	116	28.4	31.0	3.4	—
	30 歳代	135	39.3	20.0	15.6	1.5
	40 歳代	170	35.3	25.9	13.5	1.8
	50 歳代	211	31.3	26.1	12.8	3.8
	60 歳代	159	24.5	25.2	29.6	7.5
	70 歳代	182	5.5	13.2	54.4	23.1
	80 歳以上	118	0.8	11.9	54.2	31.4
職業別	常時雇用者	372	48.7	16.9	0.8	—
	臨時雇用者	189	25.4	54.5	0.5	—
	派遣社員	15	53.3	20.0	—	—
	内職	2	50.0	50.0	—	—
	自営業者、自由業者	50	14.0	68.0	4.0	2.0
	家族従業者	3	—	66.7	—	—
	経営者、重役、役員	29	31.0	27.6	—	6.9
	学生	36	22.2	25.0	—	—
	専業主婦・主夫	193	—	4.7	71.0	24.4
	無職	205	0.5	4.9	68.8	25.9

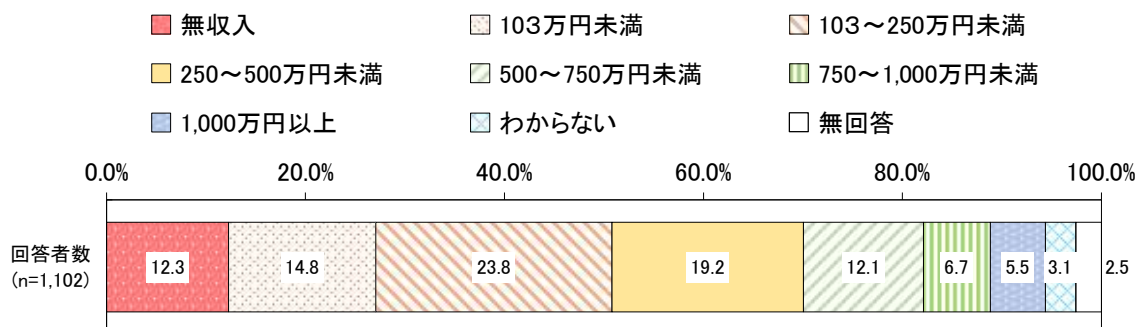
（６）年間収入（問６）

【回答者自身の年間収入】

「103～250 万円未満」の割合が 23.8%と最も高く、次いで「250～500 万円未満」の割合が 19.2%、「103 万円未満」の割合が 14.8%となっています。

なお、各年収層の中間値を回答者数に乗じて年間収入総額を算出、その算出額を所得者数で除して加重平均値を算出すると、回答者自身の平均年間収入は 387.4 万円となります。

図表10 回答者自身の年間収入（単純回答）



注) 加重平均値

- 加重平均値は、値を単純に平均するのではなく、値の個数を加味して平均すること。
- 各年収層の中間値と回答者数を掛け、収入総額を算出する。例えば、「103 万円未満」では、51.5 万円×163 人＝8,395 万円となる。
- 全年収層の総収入額を回答者数で割った値が加重平均値となる。このケースでは、350,638 万円÷905 人＝387.4 万円となる。
- なお、「無回答」や「わからない」は計算から除かれている。

図表11 回答者自身の年間収入

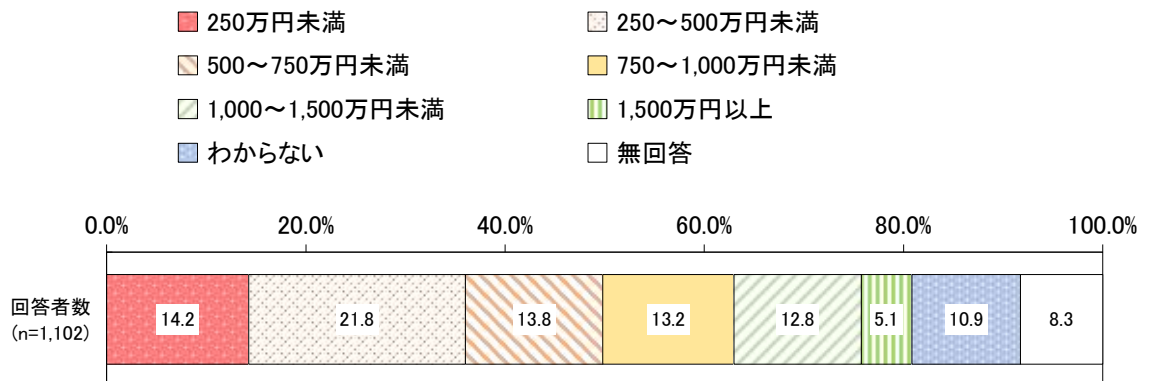
	回答者数	構成比 (%)	中間値 (万円)	収入総額 (万円)
無収入	135	12.3	—	—
103 万円未満	163	14.8	51.5	8,395
103～250 万円未満	262	23.8	176.5	46,243
250～500 万円未満	212	19.2	375.0	79,500
500～750 万円未満	133	12.1	625.0	83,125
750～1,000 万円未満	74	6.7	875.0	64,750
1,000 万円以上	61	5.5	1,125.0	68,625
わからない	34	3.1	—	—
無回答	28	2.5	—	—
合計	1,102	100.0	—	—
所得者数・収入総額	905	—	—	350,638
平均年間収入 (加重平均値)	—	—	—	387.4

【回答者の世帯の年間収入】

「250～500 万円未満」の割合が 21.8%と最も高く、次いで「250 万円未満」の割合が 14.2%、「500～750 万円未満」の割合が 13.8%となっています。

なお、各年収層の中間値を回答者数に乗じて年間収入総額を算出、その算出額を有所得者数で除して加重平均値を算出すると、回答者の世帯の平均年間収入は 679.9 万円となります。

図表12 回答者の世帯の年間収入（単純回答）



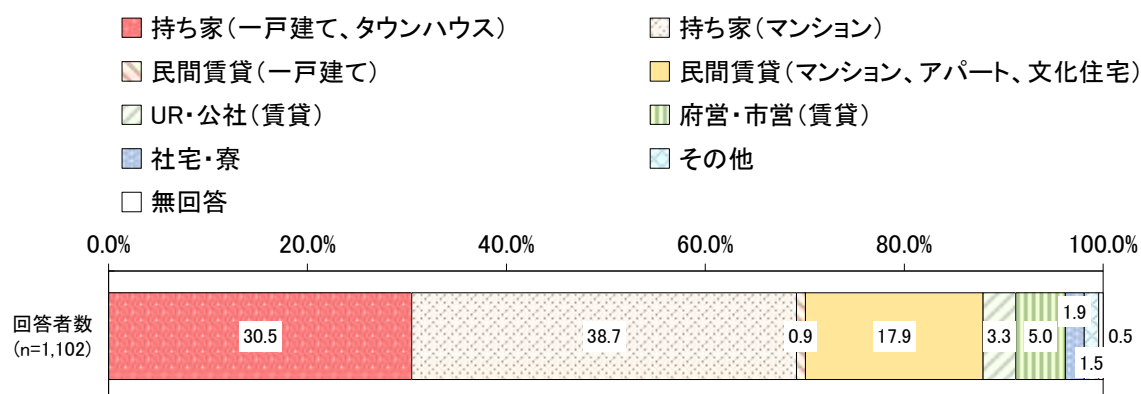
図表13 回答者の世帯の年間収入

	回答者数	構成比 (%)	中間値 (万円)	収入総額 (万円)
250 万円未満	157	14.2	125.0	19,625
250～500 万円未満	240	21.8	375.0	90,000
500～750 万円未満	152	13.8	625.0	95,000
750～1,000 万円未満	145	13.2	875.0	126,875
1,000～1,500 万円未満	141	12.8	1250.0	176,250
1,500 万円以上	56	5.1	1,750.0	98,000
わからない	120	10.9	—	—
無回答	91	8.3	—	—
合計	1,102	100.0	—	—
有所得者数・収入総額	891	—	—	605,750
平均年間収入(加重平均値)	—	—	—	679.9

(7) 住宅の種類 (問7)

「持ち家（マンション）」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「持ち家（一戸建て、タウンハウス）」の割合が 30.5%、「民間賃貸（マンション、アパート、文化住宅）」の割合が 17.9%となっています。

図表14 回答者の住宅の種類（単純回答）



図表15 回答者の住宅の種類（居住地域別・性別・年齢別）

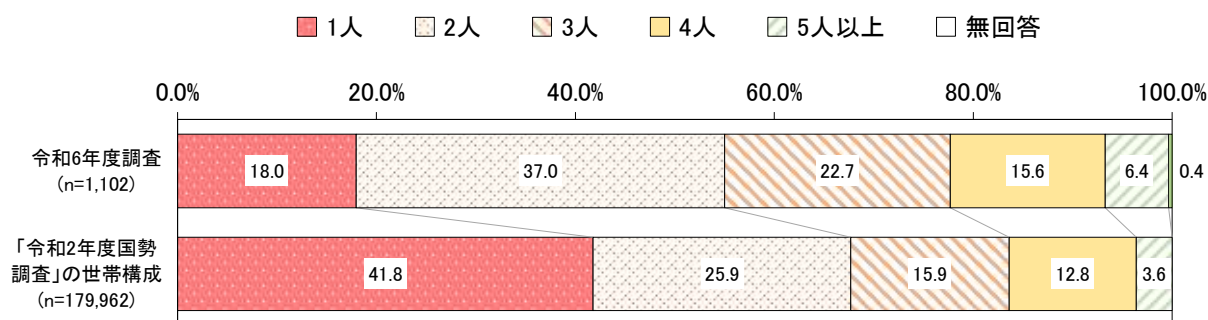
単位：%

区分	有効回答数 (件)	持ち家 (一戸建て、 タウンハウス)	持ち家 (マンション)	民間賃貸 (一戸建て)	民間賃貸 (マンション、 アパート、 文化住宅)	UR・公社 (賃貸)	府営・市営 (賃貸)	社宅・寮	その他	無回答
全 体	1,102	30.5	38.7	0.9	17.9	3.3	5.0	1.9	1.5	0.5
居住地域別	JR以南	88	58.0	9.1	—	20.5	1.1	8.0	—	1.1
	片山・岸部	155	42.6	27.1	1.9	20.0	1.3	2.6	1.3	0.6
	豊津・江坂・南吹田	204	25.0	30.9	1.5	36.8	0.5	—	3.9	—
	千里山・佐井寺	193	37.3	34.7	1.0	19.2	2.6	—	3.1	0.5
	山田・千里丘	234	20.5	63.7	0.4	11.5	—	1.7	1.3	—
	千里NT・万博・阪大	199	18.6	44.2	0.5	3.0	13.1	19.6	0.5	—
性別	女性	631	30.4	38.4	1.1	17.6	3.5	5.2	1.1	0.6
	男性	454	31.3	38.5	0.7	17.6	3.1	4.8	3.1	0.2
	答えたくない	15	13.3	53.3	—	33.3	—	—	—	—
年齢別	30歳未満	116	24.1	25.0	2.6	43.1	—	—	2.6	—
	30歳代	135	20.0	31.9	—	38.5	1.5	3.7	3.0	0.7
	40歳代	170	29.4	39.4	2.4	21.8	0.6	2.4	4.1	—
	50歳代	211	29.4	45.0	1.4	12.3	4.3	3.8	2.4	—
	60歳代	159	33.3	46.5	—	10.7	3.8	4.4	0.6	—
	70歳代	182	39.6	41.8	—	2.2	5.5	9.3	—	0.5
	80歳以上	118	35.6	34.7	—	5.9	5.9	11.9	—	0.8

（８）世帯構成（問８）

本調査の回答者の世帯人員は「１人」世帯が18.0％であり、令和２年度の国勢調査での本市の「１人」世帯の割合（41.8％）の半数以下となっています。一方、「２人」世帯（37.0％）、「３人」世帯（22.7％）、「４人」世帯（15.6％）及び「５人以上」世帯（6.4％）は、本市の令和２年度の国勢調査による世帯構成を上回っています。

図表16 回答者の世帯人員



図表17 回答者の世帯人員

	アンケート調査		令和２年度国勢調査	
	回答者数	構成比（％）	世帯数	構成比（％）
１人	198	18.0	75,156	41.8
２人	408	37.0	46,696	25.9
３人	250	22.7	28,678	15.9
４人	172	15.6	23,040	12.8
５人以上	70	6.4	6,392	3.6
無回答	4	0.4	—	—
合計	1,102	100.0	179,962	100.0
世帯人員	3,217	—	379,876	—
１世帯当たり人員	2.93	—	2.11	—

回答者の家族構成は、「二世代（親と子）」の割合が48.1%と最も高く、次いで「夫婦・パートナーのみ」の割合が29.9%、「ひとり暮らし」の割合が16.5%となっています。

世帯人員別でみると、2人世帯で「夫婦」の割合が79.7%を占めており、3人世帯、4人世帯で「親子」の割合が90%を超えています。また、5人以上世帯は「親子」が75.7%を占めています。

図表18 回答者の家族構成

